

陸軍懲罰令

軍令陸第四號

明治四十四年十月十三日
於陸軍省印刷

甲

1126-2

朕陸軍懲罰令ヲ改定シ之カ施行ヲ命
ス

御名御璽

明治四十四年十月十三日

陸軍大臣男爵石本新六

軍令陸第四號
陸軍懲罰令

陸軍懲罰令

第一章 總則

第一條 陸軍軍人ニシテ其ノ本分ニ背キ又ハ軍事ノ定則ニ違ヒ其ノ他軍紀ヲ害シ風紀ヲ紊リ其ノ犯行陸軍刑法ノ罪ニ該ラサルトキハ本令ニ依リ之ヲ懲罰ス

陸軍刑法以外ノ法令ノ刑ニ處セラレタル軍人ハ軍事ノ必要ニ依リ更ニ本令ニ依リ懲罰スルコトヲ得

第二條 本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ之ヲ適用ス

- 一 現役ニ在ル者但シ待命、休職、停職中ノ者竝未タ入營セサル者及歸休兵ヲ除ク
- 二 召集中ノ在郷軍人
- 三 召集ニ依ラス部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在郷軍人

四 志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務中ノ者

五 陸軍所屬ノ學生及生徒但シ各部依托學生同生徒ヲ除ク

六 第二號及第三號ニ記載シタル者ノ外現ニ服役上ノ義務履行中又ハ陸軍軍人ノ身分ヲ表彰シ得ヘキ服裝ヲ爲ス

在郷軍人

第三條 本令ニ於テ在郷軍人ト稱スルハ待命、休職、停職中ノ者、現役以外ノ役ニ在ル者、現役ニ在リテ未タ入營セサル者、歸休兵及退役將校、同相當官、准士官ヲ謂フ

第四條 將校相當官、准士官、見習士官見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官ヲ含ムハ將校ニ、士官候補生見習士官ヲ除ク主計候補生見習主計ヲ除ク及一年志願兵ハ各其ノ階級ニ應シ下士又ハ兵卒ニ準ス

陸軍ノ兵役又ハ兵籍ニ在リテ官等等級ヲ有セサル者ハ兵卒ニ準ス

第五條 故ナク徵集又ハ召集ノ期ニ遅レタル者ハ入營後ニ於テ之ヲ懲罰スルコトヲ得

第六條 犯行アル者懲罰處分ヲ經ス其ノ職務ヲ去リ除隊若ハ召集解除ト爲リ又ハ第二條第六號ニ該當セサルニ至リタルトキト雖仍之ヲ懲罰ス但シ兵役ヲ免シ又ハ兵籍ヲ除キタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ第九條ノ罰目ヲ科ス

第七條 懲罰處分ノ言渡ヲ受ケタル者其ノ執行前又ハ執行中其ノ職務ヲ去リ又ハ除隊若ハ召集解除ト爲リタル場合ニ在リテ

四

ハ其ノ懲罰ノ執行ヲ免除ス但シ歸休又ハ召集解除ト爲ルヘキ下士兵卒ニ在リテハ徵兵令、陸軍服役條例其ノ他法令ニ定ムル現役期限若ハ召集期日ノ範圍内ニ於テ必要ニ應ジ其ノ懲罰期間歸休又ハ召集解除ヲ延期スルコトヲ得

前項ニ依リ歸休又ハ召集解除ヲ延期セムトスルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル上官師團長（參照ニ在リテハ守備隊司令官）又ハ之ト

同等以上ノ權アル上官ノ認可ヲ受クヘシ

五

第二章 罰 目

第八條 第二條第一號乃至第五號ノ者ニ科スヘキ罰目左ノ如シ

將校

一 重謹慎

二 輕謹慎

三 譴責

下士

一 免官

二 重營倉

三 輕營倉

六

四 譴責

兵卒

一 降等

二 重營倉

三 輕營倉

第九條 第二條第六號ノ者ニ科スヘキ罰目左ノ如シ

將校

一 禮遇停止

二 譴責

七

下士

一 免官

二 譴責

兵卒

一 降等

二 譴責

第十條 重謹慎輕謹慎ハ各其ノ日數一日以上三十日以内トシ勤務ニ服スルコト居宅外ニ出ツルコト及外人ト接見スルコトヲ禁ス但シ輕謹慎ニ處セラレタル者ハ聯隊長及之ト同等以上ノ

罰權ヲ有スル上官之ニ演習教育等ノ爲特ニ出務ヲ命スルコトヲ得

重謹慎輕謹慎ニ處セラレタル者ハ罰期間重謹慎ニ在リテハ俸給十分五、輕謹慎ニ在リテハ俸給十分二ヲ減ス

第十一條 免官ハ其ノ官ヲ免シ一等卒ト爲シ降等ハ一階級ヲ下ス

第十二條 重營倉ハ其ノ日數一日以上三十日以内トシ營倉ニ銅シ寢具ヲ貸與セス飯、湯及鹽ノミヲ給シ演習及教育ノ場合ヲ除クノ外勤務ニ服スルコトヲ禁ス但シ三日ノ内一日ハ寢具ヲ

貸與シ通常ノ糧食ヲ給スルモノトス

氣候風土疾病等ニ依リ必要アルトキハ聯隊長及之ト同等以上ノ罰權ヲ有スル上官竝獨立、分屯若ハ分遣セル軍隊ノ長ハ重營倉ニ處セラレタル者ニ對シ特ニ寢具ノ使用ヲ許スコトヲ得

第十三條 輕營倉ハ其ノ日數一日以上三十日以内トシ營倉ニ銅シ演習及教育ノ場合ヲ除クノ外勤務ニ服スルコトヲ禁ス

第十四條 重營倉輕營倉ニ處セラレタル者ハ罰期間左ノ例ニ依リ俸給ヲ減ス

重營倉 營内居住者ニ在リテハ十分八、營外居住者ニ在リ

テハ十分五

輕營倉 營内居住者ニ在リテハ十分五、營外居住者ニ在リ

テハ十分二

第十五條 重營倉及輕營倉ハ勤務其ノ他ノ必要アルトキハ左ノ各號ニ依リ禁足又ハ苦役ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テモ重營倉又ハ輕營倉ニ對スル減俸ヲ行フモノトス

- 一 下士及下士兵卒ノ階級ニ在ル學生、生徒ニ在リテハ重營倉一日ヲ禁足三日、輕營倉一日ヲ禁足二日ニ換算ス
- 二 兵卒ニ在リテハ重營倉一日ヲ苦役三日、輕營倉一日ヲ

禁足二日ニ換算ス但シ營外居住者ニ在リテハ重營倉一日ヲ禁足三日ニ換算ス

第十六條 禁足ハ勤務、演習及教育ノ場合ヲ除クノ外營内居住者ハ營外ニ、營外居住者ハ居宅外ニ出ツルコトヲ禁ス

第十七條 苦役ハ勤務、演習及教育ノ場合ヲ除クノ外營外ニ出ツルコトヲ禁シ營内ノ雜役ニ服セシムルモノトス

第十八條 譴責ハ犯行ヲ糾シ將來ヲ戒飭スルモノトス

第十九條 禮遇停止ハ一日以上一年以内トシ召集ノ場合ヲ除クノ外陸軍制服ノ著用ヲ禁シ軍人ノ待遇ヲ停止スルモノトス

第二十條 同一ノ上官ハ一箇ノ犯行ニ對シ罰目ヲ併科スルコトヲ得ス

第三章 罰 權

第二十一條 師團長及之ト同等以上ノ權アル軍隊ノ長ハ部下ニ對シ本令ニ規定スル一切ノ罰目ヲ科スルノ權ヲ有ス

第二十二條 旅團長聯隊長並獨立、分屯若ハ分遣セル軍隊ノ長タル將官及佐官ハ部下ニ對シ本令ニ規定スル一切ノ罰目ヲ科スルノ權ヲ有ス但シ免官及降等ニ付テハ師團長又ハ之ト同等

以上ノ權アル上官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 大隊長及獨立、分屯若ハ分遣セル軍隊ノ長タル大尉ハ部下ニ對シ左ノ罰權ヲ有ス

一 士官准士官ニ對シテ十日以内ノ重謹慎輕謹慎竝譴責

二 下士ニ對シテ二十日以内ノ重營倉輕營倉竝譴責

三 兵卒ニ對シテ三十日以内ノ重營倉輕營倉

第二十四條 中隊長及獨立、分屯若ハ分遣セル軍隊ノ長タル中少尉ハ部下ニ對シ左ノ罰權ヲ有ス

一 士官准士官ニ對シテ譴責

二 下士ニ對シテ十日以内ノ重營倉輕營倉竝譴責

三 兵卒ニ對シテ二十日以内ノ重營倉輕營倉

第二十五條 前四條以外ノ各長官ハ左ノ各號ニ依リ部下ニ對シ罰權ヲ有ス

一 師團長ト同等以上ノ權アル將官ハ師團長ノ罰權

二 前號以外ノ將官同相當官ハ旅團長ノ罰權

三 大中佐同相當官ヲ以テ充ツヘキ職ニ在ル者竝獨立ノ職ニ在ル少佐同相當官ハ聯隊長ノ罰權

四 前號ノ外少佐同相當官ヲ以テ充ツヘキ職ニ在ル者竝獨

立ノ職ニ在ル大尉同相當官ハ大隊長ノ罰權

五 前號ノ外大尉同相當官ヲ以テ充ツヘキ職ニ在ル者並中少尉同相當官ハ中隊長ノ罰權

第二十六條 學生、生徒及分遣中ノ下士兵卒等ニ對スル學校長、教導(生徒)隊長、同中隊長ノ罰權並臨時ノ部下ニ對スル上官ノ罰權ハ前五條ノ規定ヲ準用ス

第二十七條 兼職者其ノ他部下ニ非サルモ事務上指揮ヲ受クヘキ者ノ長官ハ其ノ職務上ノ犯行ニ關シ前條ニ準シ罰權ヲ有ス

第二十八條 患者ヲ收容スル衛生機關ノ長官ハ下士以下ノ患者ニ對シ部下ニ對スルト同一ノ罰權ヲ有ス

第二十九條 東京衛戍總督、衛戍司令官、要塞司令官及警備隊司令官其ノ他一地域ニ於ケル陸軍ノ秩序ヲ維持シ警備ニ任スル司令官ハ其ノ職權ニ基ク命令規則ニ對スル犯行者アルトキハ下級官等ノ軍人ニ對シ部下ニ對スルト同一ノ罰權ヲ有ス

第三十條 師團長、聯隊區司令官、警備隊司令官及警備隊區司令官ハ其ノ所管内ニ現住スル在郷軍人ニシテ第二條第六號又ハ第六條ニ該當スル者ニ對シ第九條ノ罰目ヲ科スルノ權ヲ有

十八
ス但シ上長官以上ノ懲罰、士官准士官ノ禮遇停止ハ師團長之ヲ行ヒ聯隊區司令官、警備隊司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ下士兵卒ノ免官降等ヲ行ハムトスルトキハ師團長ノ認可ヲ受クヘシ

朝鮮、臺灣、樺太又ハ滿洲ニ現住スル在郷軍人ノ犯行ニ對シテハ各其ノ所管ニ從ヒ朝鮮駐劄軍司令官、臺灣總督、關東都督、第七師團長第九條ノ罰目ヲ科スルノ權ヲ有ス

第三十一條 上級職務心得勤ノ者及二官等ヲ通シテ充ツルコトヲ得ル職ニ在ル下級者ノ罰權ハ上級官等ノモノニ同シ

三官等以上ヲ通シテ充ツルコトヲ得ル職ニ在ル者ノ罰權ハ其ノ官等相當ノモノトス

第三十二條 將校相當官ノ部下ニ屬スル各兵科將校ノ犯行ハ該上官ノ具申ニ基キ其ノ長官タル將官又ハ各兵科將校之ヲ懲罰スルモノトス

第三十三條 直屬上官ニ非サル長官部下ノ犯行ヲ現認シタルトキハ必要ニ應ジ直ニ自己ノ權限ニ依リ之ヲ懲罰スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ受罰者ノ直屬上官ニ通牒スヘシ

第三十四條 上官ニシテ自己ノ權限以上ノ處分ヲ要スル犯行者

アルトキハ先ツ其ノ權限ニ依リ之ヲ懲罰シ意見ヲ附シテ自己
ノ直屬上官ニ上申スヘシ

第三十五條 懲罰處分ヲ爲シタル各上官ハ其ノ直屬上官ニ報告
シ受罰者第二十六條第二十八條又ハ第二十九條ニ該當スルト
キハ仍受罰者ノ直屬上官ニ通牒スヘシ

受罰者在郷軍人ニシテ官公吏ナルトキハ之ヲ本人所屬ノ官公
署長ニ通牒スヘシ

所管内ニ現住スル在郷軍人ニシテ他所管ニ屬スル者ナルトキ
ハ前二項ノ外受罰者本籍地ノ陸軍關係諸官ニ通牒スヘシ

第三十六條 前二條ノ申報ヲ受ケタル上官及直屬上官ニ非サル
長官ハ其ノ懲罰ニシテ輕キニ失スルモノト認メタルトキハ其
ノ權限ニ依リ懲罰期間ヲ増加シ又ハ新ニ罰目ヲ附科スルコト
ヲ得但シ附科スヘキ罰目ハ第八條及第九條ノ區分ニ從ヒ前罰
目ニ比シ重キモノヲ加フルモノトス

前項ノ場合ニ於テ第九條ノ罰目ヲ除クノ外各官ノ懲罰日數_{下級上官}
_{ノ初罰日數ヲ含ム}ヲ通算シ三十日ヲ超過スルコトヲ得ス但シ重營倉若ハ
輕營倉ニ代ヘ禁足又ハ苦役ヲ科シタルトキハ其ノ重營倉又ハ
輕營倉ノ日數ヲ通算スルモノトス

第三十七條

上官ハ部下ノ懲罰處分及其ノ執行ヲ監督スヘシ其ノ懲罰處分ニシテ本令ノ規定ニ反スルモノアルトキハ其ノ罰目罰期ヲ變更シ若ハ懲罰處分ヲ取消スコトヲ得但シ故意過失等犯行ノ性質ニ對シ認定ヲ異ニシタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條

前條ニ依リ罰目罰期ヲ變更シタルトキハ既ニ服罰シタル日數禁足又ハ苦役ヲ執行シタル場合ニハ其ノハ新罰目ノ日數ニ通算ス但シ重謹慎輕謹慎又ハ重營倉輕營倉ヲ通算スル場合ニハ重謹慎又ハ重營倉一日ヲ輕謹慎又ハ輕營倉二日ニ換算ス

第三十九條

親補職タル將官ニ對シテハ本令ヲ適用セス

二十二

第四章 處罰

第四十條

懲罰處分ヲ爲スニハ犯行ノ事實ヲ審查シ其ノ弊害ノ程度、犯行ノ情狀其ノ他受罰者ノ性行等ヲ斟酌シテ罰ヲ定ムヘシ但シ第二十七條ニ依リ懲罰處分ヲ爲ス場合ニ於テハ本屬長官ニ協議スルモノトス

第四十一條

免官降等ハ犯行重キ者又ハ屢刑罰若ハ懲罰ノ處分ヲ受ケ仍改悛ノ狀ナキ者ニ科ス

第四十二條

重謹慎重營倉ハ故意ニ係ル犯行ニ科シ輕謹慎輕營倉ハ過失ニ係ル犯行ニ科スルヲ例トス

二十三

第四十三條 懲罰處分ヲ爲スニハ口頭ヲ以テ詳ニ犯行ヲ示シ其ノ懲罰ヲ言渡スヘシ若シ犯行者ノ所在地遠隔スルトキハ言渡書ヲ作り之ヲ其ノ直屬上官ニ送付シ同官之ヲ讀聞カスヘシ但シ直屬上官在ラサルトキハ本人ニ送付スルモノトス

前項懲罰ノ言渡ハ必要ニ應シ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ所屬部隊中ニ公示スルコトヲ得

第四十四條 懲罰ノ言渡ニハ受罰者ノ直屬上官若ハ受罰者ト同官等同等級以上ノ者ヲ陪列セシムルヲ例トス

第四十五條 懲罰ハ言渡後直ニ之ヲ執行ス但シ勤務其ノ他ノ必要ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止スルコトヲ得

前項猶豫又ハ停止ノ日數ハ懲罰期間ニ算入セス

第四十六條 戰時又ハ事變ノ場合ニハ懲罰ノ儘服務セシムルコトヲ得但シ其ノ服務日數ハ懲罰期間ニ之ヲ算入ス

第四十七條 重營倉輕營倉ニ處セラレタル者ハ其ノ所屬部隊ノ營倉ニ銅シ所屬部隊ニ營倉ナキトキハ附近ニ在ル部隊ノ營倉又ハ憲兵隊ノ留置所ニ銅スルモノトス

第四十八條 懲罰執行中疾病ニ罹リタルトキハ醫師ノ診斷ヲ受

ケ水火等ノ災害ニ際シテハ防救遷徙スルコトヲ得
疾病中ノ者ハ診断ノ結果ニ依リ懲罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ
得但シ其ノ停止日數ハ公務ニ基因スル疾病ニ依ル場合ヲ除ク
ノ外懲罰期間ニ算入セス

第四十九條 犯行アル者轉職又ハ轉隊スルトキハ懲罰ノ言渡ヲ
爲シ之ヲ執行シタル後出發セシムルモノトス但シ第四十五條
但書及第四十六條ノ場合ニ在リテハ戴罰ノ儘轉職又ハ轉隊セ
シムルコトヲ得

第五十條 轉職又ハ轉隊シタル者ノ舊所管ニ於ケル犯行發覺シ

タルトキハ新舊上官協議シ新上官之ヲ懲罰スヘシ

前項ノ規定ハ第六條及第二十六條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十一條 免官降等ニ處セラレタル者懲罰執行中ノ者又ハ懲
罰執行猶豫若ハ停止中ノ者ニシテ特ニ功績、勤勞アルトキ若
ハ改悛ノ狀顯著ナルトキハ其ノ官等等級ヲ復シ又ハ其ノ懲罰
ノ執行ヲ減免スルコトヲ得但シ之ヲ復スルノ手續ハ官等ニ在
リテハ任官、等級ニ在リテハ進級ノ例ニ依ル

第五十二條 懲罰ノ執行ヲ終リタルトキハ第四十四條ニ定ムル
者ヲ陪列セシメ受罰者ヲシテ將來ノ改悛ヲ誓言セシムヘ

雜則

第五十三條 犯行ヲ審理スル場合ニ於テ犯行者ヲ營倉ニ留置シ又ハ其ノ勤務ヲ停止スルコトヲ要スルトキハ其ノ罰權ヲ有スル上官之ヲ命シ該上官在ラサルトキハ犯行者ヨリ上級ノ者假ニ之ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 懲罰期間ノ計算ニハ執行ノ初日ハ時間ニ拘ラス一日トシテ算入シ重營倉輕營倉ノ解網ハ其ノ期間滿了ノ翌日午

前ニ於テ之ヲ行フ

第五十五條 軍人ニシテ軍紀風紀ニ有害ナル行爲アルトキ之ヲ現認シタル上級者ハ訓誡制止シ尙懲罰ニ處スルノ必要アリト認メタルトキハ本人所屬ノ上官ニ申報スヘシ

第五十六條 俘虜ノ懲罰ハ免官降等ニ關スルモノヲ除クノ外其ノ官等等級及身分ニ應シ第八條ノ罰目ヲ準用ス